

一般社団法人 からし種の会後援会

感謝とお願い

理事長 小淵 康而

コロナ禍がはや3年になりましたが、からし種の家も、マナの家も、守られておりますことに深い感謝を覚えずにはおられません。職員の方々の毎日のご苦労に頭が下がります。

さて、いつものように、からし種の会を寄付金によって側面から支える働きに多くの皆様からのお支えをいただき、ありがとうございます。まだ借入金の残りがありますが、毎年順調に返済が進んでおります。今年も皆様のご協力を心よりお願いいたします。

後援会個人献金等 一般社団法人からし種の会後援会

2021年7月1日～
2022年2月24日分

■賛助会費、維持会費、自由献金

氏名	金額	氏名	金額	氏名	金額
小林 恵	10,000	小槻 節	5,000	加藤 栄嗣	3,000
小柳 直江	10,000	(株)CommPlusBiz	10,000	薩摩雅宏・牧子	5,000
神保 みゆき	5,000	新潟地球村教会	10,000	日本基督教団 新津教会	3,000
船山 悦子	5,000	竹内 晃	5,000	日本キリスト教団 越谷教会 教会学校	5,000
並木 浩一	15,000	久保 和子	5,000	新発田教会	10,000
山岡 清二	5,000	竹田 一光	3,000	星野りえ子	20,000
佐藤 静子	10,000	加野 久子	3,000	日本キリスト教団 聖ヶ丘教会	20,000
貝塚 夕紀代	5,000	安藤謙三・紀子	5,000	日本キリスト教団 東中通教会	3,000
横山 豊治	3,000	福島 三郎	10,000	日本キリスト教団 新丸子教会	5,000
児玉 幸	5,000	林浄子(代)	5,000	富岡 元子	5,000
河村 千恵子	5,000	重島 高美	2,000	櫻井 勝郎	3,000
土橋 敏孝	10,000	北尾 隆昭	5,000	新潟信濃町教会 JC	3,000
春山 陽子	10,000	加藤 楽子	5,000	日本キリスト教団 高田教会	3,000
明地 美智子	5,000	日本キリスト教団 聖ヶ丘教会 婦人会	10,000	山崎 ハコネ	1,200,000
高橋 勝	30,000	(株)ネイグル新潟	10,000		
福田 万里	10,000	古川 久子	3,000	匿名	5,000
小島 京子	5,000	田邊 昌邦	10,000	匿名	50,000
中俣 正美	50,000	藤森 恵美子	5,000	匿名	100,000
高橋和彦・華枝	3,000	日本キリスト教団 新丸子教会 婦人会	3,000	匿名	3,000
大岩 治子	5,000	松崎 博司	5,000	匿名	10,000
守下 義之	20,000	石井麗子、高橋百合子、佐藤貞子	10,000		
河上 正義	5,000	イエス・キリスト 栄光教会	5,000	後援会寄附金合計	1,821,000

献金・ご寄附のお願い

看取りの家、たまり場、みんなの食堂は自主事業で行っておりますので、運営は皆様からの献金・ご寄附に支えられています。

ご支援をよろしく願いいたします。

後援会の口座 郵便振替口座 払込取扱票で入金の場合

口座番号：00540-6-53627

加入者名：一般社団法人 からし種の会後援会



編集後記

「からしだね」第34号は、いかがでしたでしょうか。コロナ禍でなかなか思うような活動が出来ませんが、マナの家に設置した看板や掲示板で、みんなの食堂やなんでも相談他、色々お知らせをしていければと思っております。今後ともご指導・ご支援の程、よろしくお願い致します。(事務局 高橋)

■法人寄附

氏名	金額
長谷川 静子	5,000
山北宣久・千世	100,000
森数美・たづ子	30,000
松井 朝子	50,000
山田昌人・光子	80,000
永田 陽子	20,000
幸田 良子	100,000
小淵 康而	100,000
匿名	100,000
匿名	10,000
合計	595,000

○所得税控除の為に法人へご寄附をされる方は下記の口座へお振込みをお願いします。

法人の口座

・第四北越銀行 小針が丘支店 普通預金
口座番号：1311450

口座名義：社会福祉法人からし種の会

・ゆうちょ銀行
口座番号：00520-2-49444
口座名義：社会福祉法人からし種の会

※ご不明な点はお問合せ下さい。

TEL 025-201-7688

「上をめぐって」

理事長 山崎 ハコネ



新型コロナウイルス感染症に対応しながら、からし種の家をはじめ、マナの家、公益マナの家の前年寄りの方々のいのちとケアが織りなす笑いのある日常生活が今日も重ねられています。

ある三月に入った日曜日の讚美礼拝のときのことです。百歳を超えるA様は、毎週日曜日の午後を守られるさんび礼拝をいつも楽しみにしておられます。しかし、その日のA様は朝から眠りが強く日中をおとしてウトウトされ、礼拝開始時も寝息が聞こえていました。

当日の礼拝説教は、救世軍の士官を引退された佐藤静子先生が礼拝説教をご担当くださいました。コロナ禍のためオンライン礼拝の準備を済ませた私は、A様のお部屋で、戸を開けて、リビングの皆様と一緒に礼拝を守らせていただきました。A様の耳元で、「いつくしみ深き友なるイエスは」と讚美歌を歌い、アーメンと歌い終えたときのことです。「グーグー」という、やすらかな寝息がタイミンクよく響きかえってきました。

思わず笑みがこぼれるような瞬間があると同時に、やさしい風に触れたような平和な空間に包まれて、なんて素敵なことだろう。「ああ、いいなあ！」と声が漏れ出したほどでした。

どれもが老いを迎えたときに、A様のように神と

人との愛の中で憩いつつ、与えられた人生を、無理なく過ごせることと、眠っている礼拝にあずかることではないでしょうか。礼拝のあるホームの暮らしが全ホームにおいて大切にされ、ともに備えられている恵みに感謝を覚えるときとなりました。

しかし、そのおだやかな暮らしがある一方で、その現場に従事する職員たちにとっては、新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況が継続しています。これまで、ひとりも感染者は出ておりませんが、「まん延防止等重点措置」が解除されても、三回目のワクチン接種が進んでも、新潟県内の感染者は十分に減っておらず、職員の子どもが通う保育園で、利用されている施設で休園となる、身内に濃厚接触の疑いあるかもしれない等々で、管理者らは勤務調整が頻繁に行われるなど、二十四時間の変則勤務体制を組んでいくのが本場に難しく、従事する職員らの負担は大きくなるばかりでした。しかし、こうした状況というのは当法人の現場が特別なのだというより、コロナ感染症の拡大が続く状況においては、どの福祉・医療現場においても同様なことが起こっているということではないでしょうか。

それでも職員たちは自らの専門性を磨き、介護支援専門員、社会福祉士、介護福祉士と高度な試験を三名の職員が合格し、二〇二二年度においては各専門職として従事されます。四月からは新採用職員二名を加え、人事評価規程

も新設されてより働きがいのある職場環境を整備していくところですが、実はこの人事評価規程には「降格」という文言が撤去されるという他ではあまりみられないところで熱い審議が重ねられ、理事会決定となりました。その時のある理事の名言です。「職員は上だけを指したらいんですよ！」

主の年二〇二二年度ももうすぐ始まります。小さな法人・小さな事業ではありますが、上をめざし、全利用者・全職員そのひとり一人の違いと個性を互いに認めつつ、互いの笑顔を引き出せるように愛し、ゆるし、助け合って歩む日常をもとに創って重ねていきたいと思います。

新設

看板をデザインさせていただいた、絵本作家・イラストレーターのエイキミナコと申します。10年ほど前にマナの家のイラストを描かせていただきました。再びこうしてご縁をいただけてとても嬉しいです。



看板をご覧になった方々に情報を知っていただき、マナの家とからし種の家で、更には皆さんの笑顔が生まれますように。

コロナ禍での有明地区作品展 からし種の会♡小規模福祉バザー

福祉バザーに参加して

からし種の家職員 中島 美帆

令和三年十一月三日 有明地区作品展 からし種の会小規模福祉バザーが開催されました。新型コロナウイルス感染症対策をとりながら、からし種の家からは四名の入居者が参加されました。この展示スペースには絵画、習字、刺繍などたくさんのお作品が飾られており、それらの作品を興味深そうに見入っている入居者の姿がとても印象的でした。驚くほど技術の高い作品を目にしてわたしたち自身の心も動かされました。テントが張られた中庭では寄付品・手作り品・おはぎ・手作りパン等の販売が行われていました。からし種の家からは入居者がチラシを折って作った箱（ゴミ入れ）をラッピングしたものを無料配布させて頂きました。少しでもお役に立てたなら幸いです。コロナ禍で外出の機会が減った中、幸いです。ホームにお買い物からし種の家入居者様は大興奮で購入された後、お茶を飲みながらバザーで出たものを見せ合うなど大賑わいでした。外出や買い物などお茶を飲みながらの尊厳をあらためて実感させられた一コマでした。

からし種の家には編み物が得意な入居者様が何人もいらっしゃいます。来年の作品展には入居者様が手掛けた編み物の作品を出展できたらいいなあと思っております。

地域の皆様、ボランティアの皆様、企画・準備・片付けを担当した職員の皆様、入居者の皆様、そのほか関係各位すべての皆様：ご協力ありがとうございました。



バザーを振り返って

マナの家職員 治 峻太郎



新型コロナにより大変な状況の中、無事マナの家でバザーを開く事が出来ました。利用者様のご家族や地域の皆様にお越しいただいて、賑わった事を喜ばしく思います。利用者様はご家族と一緒さし、展示をご覧になって楽しんでいただけました。ご家族のご都合が合わず、一緒出られなかった利用者様も、職員と展示を覗いてもらって嬉しかったです。来なかった利用者様も、職員と展示を覗いてもらって嬉しかったです。昼食は利用者様に、好みのお弁当を選んでいただき、お寿司や天丼の弁当などを召し上がって頂き、大変喜ばれました。生活に様々な制限を強いられる状況ではありますが、利用者様には今後も楽しく過ごせていただけたらと思っています。

コロナ禍のバザーで感じたこと

マナの家職員 滝澤 絹代



コロナ禍のため、小規模ではありますが、有明地区作品展と福祉バザーが開催されました。今年度は作品展に、マナの家の展示スペースも用意され、ご利用者が入居前に作られた木目込み人形や裂織りのバッグなどが展示されました。色使いや仕上げの丁寧さに感動し、趣味を楽しんだことなども想像しながら鑑賞させていただきました。また、今回は寄付品や手作り品をバザー終了後も地域交流スペースに並べ、ご利用者の皆さんに買い物を楽しんでいただきました。手作りの人形の表情を比べて、「こっちの方がかわいいね」とゆつくり手に取って選んだり、家族にプレゼントした

研修報告

講師 めぐみ在宅クリニック院長 小澤竹俊先生

オンライン講演会「看取りの実践〜ひとりの人間としての尊厳を守るケア〜」を受講して

西区社会福祉協議会 橋 登志枝様

当初そのタイトルから、どんなに鮮烈なお話かと身構えていたのですが、実際は大変穏やかであたたかなご講話でした。

講師の小澤竹俊先生が、様々な事例や援助的コミュニケーションの大切さと、その目指すところなどをご教示くださいました。なかでも「苦しみ」についてのお考え方が印象に残りました。人は心の持ち方や出会った人によって、その苦しみも感謝にかえられること。自分の弱さを認め困難に向き合い続ける強さを持つこともできること。そして人の苦しみに関わろうとする優しさの連鎖を生み出すこともできることを教えていただきました。

西区社会福祉協議会では、小中学校などで福祉の学びを支援しています。子ども達に、身の回りの人や地域に目を向け、課題解決のために行動する力を養って欲しいと願うものです。

小澤先生の、困りごとに寄り添い、関わり続けてくれる人を地域で育成して行く取り組みと、私どもの目指すところは通底して行く心強く感じました。素晴らしい講座を受講させていただきました。本当に有難うございました。



オンライン講演会「看取りの実践〜ひとりの人間としての尊厳を守るケア〜」

マナの家管理者 堀川 聖子

二〇二一年十月十三日小澤竹俊先生による「看取りの実践」のオンライン講演会を行いました。ご家族や地域の方々、地域包括支援センターや社会福祉協議会の職員さんと共に「安心して住み慣れた地域で最期まで過ごせるために何を学んだらいいか」ということを一緒に学びました。誰もが直面する大切な人の最期、そして自分の最期。その苦しみをどのように受け止め、互いに支え合っていくのかを自分の心に向き合いながら考える機会となりました。講演の中で「相手を理解することではなく、相手から見えてわかってくれる人になること」「誰かの支えになろうとする人こそ一番支えを必要としています」といったお話があり、深く心に残りました。

講師 株式会社あしたの森 林正海先生

林社会福祉士事務所 林正海先生

昨年十月より新たな取り組みとして「福祉なんでも相談室」を開設いたしました。高齢・障がい・児童・家族等分野問わず、地域の方々お一人おひとりが抱える福祉に関するお悩み相談を受け付けております。それに伴い、先日、林先生をお招きし相談員研修を行い、相談室の相談員をはじめ、ケアマネ・介護職員が参加しました。



この研修を通して、家族やパートナーなどの強いつながりと地域住民やこの「福祉なんでも相談室」などの弱いつながりとは、それぞれ役割が違いどちらも同じくらい大切だということがわかりました。また、聴くときのポイントについても学びました。相談を聴く際はたとえ解決できなくても、その問題を知ってくれてくれる人になるということも相談を受けるうえで大事なと気づかされました。相談室での対応はもちろん、日々のご利用者、ご家族、地域の方々との関わりの中でも学んだことを活かしていきたいです。

いと、お相手に合うものと考えて購入される方もいました。バザーのにぎやかな雰囲気での買物の良さを味わうことができて、普段の生活とは違う時間を楽しむことが出来ました。外出や交流が制限された生活が続いていますが、工夫しながら少しでもご利用者の楽しみを作っていきたいと思っています。



編み物や刺繍などたくさんのお作品が飾られており、それらの作品を興味深そうに見入っている入居者の姿がとても印象的でした。驚くほど技術の高い作品を目にしてわたしたち自身の心も動かされました。

みんなの食堂

マナの家職員 西村 富美子

みんなの食堂は、毎月第四月曜日の夕方、開催しています。十一月三日は、例年通り、西有明地区の作品展とマナの家のバザーがありました。みんなの食堂ではスタッフとボランティアの方たちとでパン、さつまいもごはん、から揚げ、たこ焼きなどを販売しました。当日の朝から手作りしたもので、「おいしい」と好評でした。

十二月のクリスマス食堂では、いつものお弁当に加え、地域の子供たち（十五世帯、二十五個）にお弁当とケーキをプレゼントしました。地域の世話役の方と若いスタッフが一緒に配りました。そのお弁当がおいしかったと次からお弁当を予約して下さいました。家族もありました。

毎回いつとこーと様、J A 共済連新湯様より野菜やお肉などをいただいております。米やご自分で作った野菜をくださる方もありました。今年度は二回、丸寿司小針店様から子ども達用においなりさん、のり巻き、唐揚げ等の折詰をご提供頂きました。たくさんの方たちのご協力です。ありがとうございます。ご感想をいただいております。



身体拘束廃止虐待防止研修

マナの家職員 長岡 勇太

二月七日に林先生をお招きし、マナの家「いこい」にて身体拘束廃止虐待防止研修を行いました。講義は高齢者の尊厳、生命、身体を守る介護職としての責務についてのお話や、グループワークにて身体拘束や虐待の種類の再確認をするなどの内容でした。からし種の家、マナの家はアットホームな雰囲気のために職員と利用者様の距離感が近いが施設の特徴ですが、その為に見落としがちなポイントや職員同士で確認できたのは日々の介護を振り返るよい機会となりました。

身体拘束廃止虐待防止研修を受講し施設職員全員が周知し、地域の方々からも安心、信頼される施設に、そして私自身が初心を忘れず質の高い介護が提供できるように精進していきたいと感じました。

新しい通路ができました!!

マナの家ご利用者 南波 セツ様



「職員の方から相談され、カタログを見ながらブロックの色を選びました。ピンクとオレンジ色がきれいだったので思い選びました。明るい感じになって、時々カーテンを開けて外を眺めています。動きやすくなつて車いすでも安心して通れます。何かあったら職員さんが私をおぶってここから逃げるそうです。私は重いですよ(笑)」